

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査及び情報提供委託事業)

柳 昌之・福井克也・村山達朗

1. 研究目的

近年、大型クラゲが本県をはじめとして日本沿岸に大量に来遊し、大きな漁業被害を与えている。そこで、その出現状況を、調査船「島根丸」、漁業取締船「せいふう」による洋上調査、操業漁船からの聞き取り調査等により把握し、漁業関係者に迅速に情報提供を行い漁業被害の低減に努める。

2. 研究方法

(1) 洋上分布調査

平成 21 年 8 月 24 日～27 日にかけて隠岐諸島東方～対馬西方の海域の 20 定点において、調査船「島根丸」により LC ネットを使用して大型クラゲを採集した。採集したクラゲは個体数、傘径、または感覚器官の間隔を測定した。

(2) 洋上目視調査

①調査船「島根丸」

7～12 月に計 4 回、島根県沖合において、船上から目視による調査を実施した。調査は定点から 2 マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視された大型クラゲを計数した。

②漁業取締船「せいふう」

7 月～翌年 2 月の間の全航海において昼間に実施した、調査は船橋上両舷から目視された大型クラゲを計数した。

(3) 陸上調査

県内主要漁協と島根県機船底曳網漁業連合会から来遊状況の聞き取りと定置網漁業および小型底びき網漁業の標本船調査を実施した。標本船は、定置網漁業 5 ヶ統と小型底びき網漁業 3 隻に依頼した。定置網では 8 月から 12 月までの期間、操業ごとの入網数、大きさ、被害状況、対策実施の有無について記入を依頼した。小型底びき網漁業については、9 月から 12 月までの期間、操業ごとの入網数、大

きさ、被害状況、対策実施の有無について記入を依頼した。

3. 研究結果

(1) 洋上分布調査

20 定点中、17 調査地点でエチゼンクラゲが合計 92 個体採集され、破片個体も約 20 個体採集された。また、停船時の目視では 1 定点でエチゼンクラゲを確認した。

(2) 洋上目視調査

「島根丸」では 11 月 24 日から 25 日の調査で 72 個体、12 月 24 日から 25 日の調査で 2 個体のエチゼンクラゲを確認した。

「せいふう」による調査では 8 月 4 日と 18 日に隠岐諸島周辺でそれぞれ 383、410 個体のエチゼンクラゲを確認した。

(3) 陸上調査

①定置網漁業

平成 21 年は 8 月には入網が始まり、10 月中・下旬に最大の入網量を示しその後は増減を繰り返しつつ減少したが、12 月の調査終了まで入網が続き、漁具の損傷・操業遅延・鮮度低下などの被害があった。

②底びき網漁業

小型底びき網では、9 月の休漁あけから大量に入網し、その後減少したものの 11 月に再び増加し 12 月の調査終了まで入網が続き、漁具の損傷・操業遅延による操業回数の低下・鮮度低下などの被害があった。

沖合底びき網では、8 月下旬の休漁あけから入網が続き、9 月下旬に入網のピークを迎えた。大量入網による破網等の漁具損壊や魚取り部を開放し漁具を揚収する事態も発生し、操業遅延による操業回数の低下・鮮度低下などの被害があった。

(調査結果の詳細は、本報告書「平成 21 年度の大型クラゲ出現状況を参照のこと」